

大久保市長

7月定例記者会見、今回は5つの項目をお知らせします。

1つ目、市役所の窓口受付時間の見直しです。

マイナンバーカード交付の事務作業で、窓口の延長や休日の窓口対応を行ったり、書かないワンストップ窓口の導入など、市役所の顔というべき窓口サービスの向上に取り組んでいます。

近年、コンビニ交付による各種証明書の取得、電子申請など市役所の窓口に直接来庁せずにできる手続きが増えてきて、行政DXも徐々に広がりを見せています。

今後も限られた人的資源を有効に活用しながら、組織の生産性や市民サービスの質の向上を図るとともに、職員が働きやすい職場環境を整備するため、窓口受付時間の見直しを行います。

現在は8時30分から18時までですが、今年の10月から、9時開始・16時30分終了で、試行期間は10月から6か月で年度内です。

開庁時間や電話対応の時間は、これまでと変わりません。

時間の短縮は、本庁の1階から3階、別館の1階、支所・出張所で試行していきます。

新たに生まれる時間を活用して大きく期待することは、1つ目は職員個々のスキルアップやDXの活用で窓口事務で発生するミスを防ぐチェック体制の強化など、窓口業務の効率化と組織の生産性の向上を図っていきます。

期待する2つ目は、電子申請の拡充やAIチャットボットの導入検討など、現在の社会的なニーズに応えるという市民サービスの質の向上を図っていきます。

期待する3つ目は、職員の働き方の見直しです。

全国の自治体で窓口受付時間の見直し、また短縮という動きが広がっています。

県内では長崎県のほか2つの町、時津町と東彼杵町が取り組んでいますが、県内13の市では初の試みとなります。

検討しているところは他にもあると思います。

半年間の試行期間ですが、さまざまなご意見や課題を解決しながら市民満足度の高い取り組みをしたいと思います。

2つ目の項目です。

平和への取り組みということで、諫早市では「平和都市諫早宣言」、この理念を普及していくため、毎年夏の時季に巡回原爆パネル展、戦争・被爆体験講話会、平和のつどいを開催しています。

巡回原爆パネル展は、7月23日から8月27日にかけて、飯盛ふれあい会館・諫早図書館・高来西ゆめ会館・森山図書館の4会場で順次開催します。

その中には、寄せられた戦争被爆体験の手記などがあります。

実際爆心地から数百メートルの場所で被爆された、原爆投下後に諫早に運ばれてきた負傷者の救護活動をされたなど、いろんな体験談のご寄稿をいただいています。

ぜひ多くの皆様にお立ち寄りいただき、当時の状況を知ることができる貴重な機会になると思います。

7月30日には諫早市美術・歴史館で、戦争・被爆体験講話会を開催します。

この講話会は、市内の児童の皆さんに平和への関心を高めてもらおうと、学童クラブを対象に開催します。

それから交流証言者である大学生による講話、出前講座のグループによる平和学習を行います。

原爆投下日の8月9日には、諫早でも社会福祉会館で諫早市人権教育研究会と共催による平和のつどいを開催します。

ここでは交流証言者の講話、小学生の平和学習発表、高校生1万人署名活動実行委員会の活動報告のほか、盲目のシンガーYUNAさんによるコンサートも予定しています。

8月11日には、諫早市原爆被災者協議会（被災協）の主催で、天満町にあります百日紅公園で諫早原爆犠牲者慰霊祭を開催します。

これは、8月9日のあと原爆で被災された方々が、いわゆる被爆列車といわれる列車に乗って諫早駅にどんどん運ばれてきて、手当てをして、残念ながら命を落とされた方を、以前市の火葬場があったところで荼毘に付したということもあって、過去の出来事、原爆の惨禍というのをとにかく風化させない、これからの次世代の方々にしっかり継承していくと同時に、核兵器廃絶と世界の恒久平和を目指していこうという諫早の取り組みをご紹介します。

次に、都市部での移住相談会です。

例年行っていますが、諫早市は令和4年度から市の組織の中に移住定住推進課を設置をして、促進に取り組んでいます。

その1つに、都市部で開催される県内市町合同の移住相談会、ながさき暮らし相談会に積極的に参加しています。

来場される移住を検討されている方には、諫早市の移住コーディネーターや地域おこし協力隊が対面に対応します。

実際に諫早市に移住しているので、実体験を交えたリアルな声を届けることで、諫早での暮らしを具体的にイメージしていただける取り組みをしています。

移住相談会は毎年諫早市のブースを訪れる方が増えています。

令和4年度は4回実施して22組33人、令和7年度は5回実施して66組96人、非常に諫早市への関心、認知度の高まりを感じています。

諫早市独自の移住相談イベントを東京都内で昨年から雲仙市と合同で移住フェアとして開催しています。

7月19日に終わりましたが、11組18人の子育て世帯、夫婦世帯などがご参加いただきました。

諫早市の担当職員、移住コーディネーター、地域おこし協力隊が参加して対面で、例えば週末の過ごし方、日常の諫早でのライフスタイルなど、具体的に伝えました。

参加者の方からは、諫早での生活がイメージできた、参加してよかったと感想をいただいています。

移住定住というのはその方にとっては人生の一大決断ですので、諫早のことを都市部の方によく知っていただく必要がありますし、丁寧な対応なども移住を考えられる方の評価の1つになると思いますので、しっかりと丁寧に対応していきます。

第69回諫早万灯川まつりです。

昭和32年7月25日、未曾有の諫早大水害の犠牲者の方の追悼、教訓を後世にしっかりと伝えていきます。

防災の意識を高め、安全で美しいまちづくりを目指すということで、毎年開催されています。

来年が70回目ということで、1つの節目でありますので、その記録・広報用のドローン撮影を実施します。

この鎮魂・防災の思いを次の世代へつなげていくために、小野中学校の生徒の皆さんのメッセージが入った万灯を制作します。

当日は約2万本の万灯の点火、午後8時から式典、8時30分からは約2,000発の花火を打ち上げます。

今年も約5万人の来場を見込んでいますので、多くのみなさんに来ていただいて、万灯の灯り、花火が織りなす諫早ならではの風景をご覧いただければと思います。

最後に、ISAHAYA SMILE DAYの開催です。

昨年10月にいさはやスポーツコミッションを設立し、このスポーツコミッションが主催となって行うインナー事業です。

市民向けの大きな初開催のイベントです。

日にちは10月12日月曜日・祝日、スポーツの日です。

場所は、市役所前の中央交流広場、中央体育館(内村記念アリーナ)で開催します。

このイベントの開催には、これまでアエルコドモフェスなどをやってきました諫早商工会議所青年部(YEG)、マルシェなどを数多く開催されているルノン株式会社様が共催という形でやっていきます。

メイン会場の市役所前の中央交流広場と内村記念アリーナをシャトルバスで周回をしながら、さまざまなスポーツに加えて、WORK(職業体験)、キッチンカーなどがたくさん出てきますので FOOD(食べる)、HEALTH(市民の健康)などを大きなテーマにやっていきます。1日中参加者の皆さんが楽しめるイベント、それぞれのブースでスタンプラリーも行います。ここには諫早市ふるさと特別大使 内村航平さんをアンバサダーにお迎えして、まさに世界を魅了した体操の技の実演、体操教室も行います。

この出展の内容などは、今後諫早市やコミッションのホームページ、SNSなどで随時発表していきますので、ご注目していただけたいと思います。

今年のスポーツの日10月12日は、ISAHAYA SMILE DAY笑顔あふれる1日になりますように多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

ということで、本日7月の会見の5つの項目の説明に代えさせていただきます。

ありがとうございます。